日本クルーズ&フェリー学会メールニュース

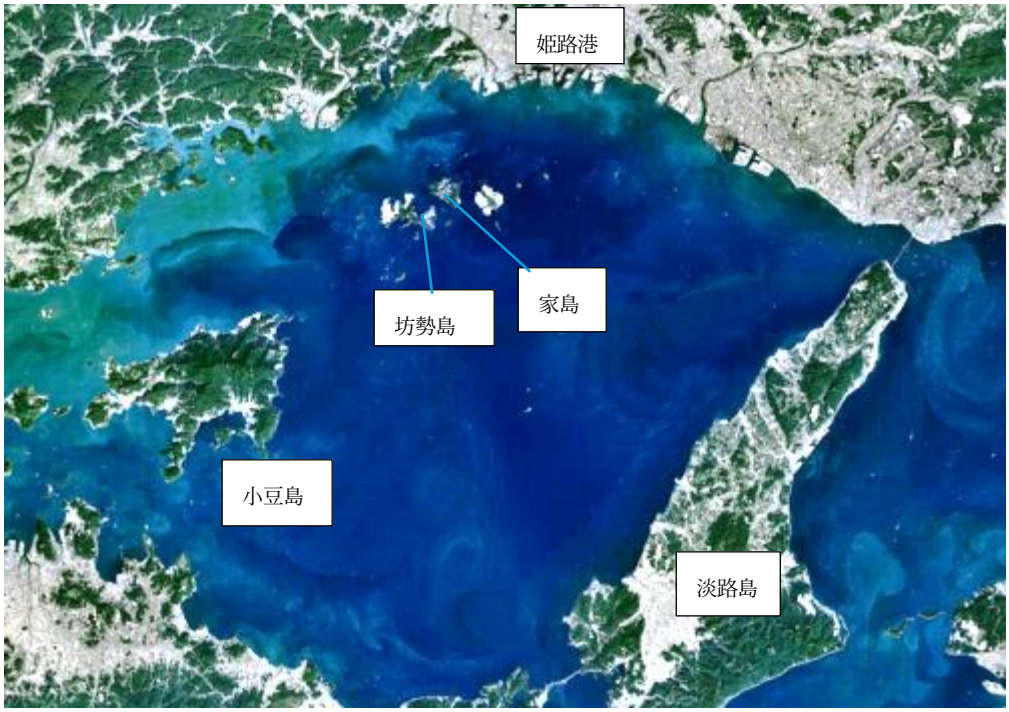
はじめての家島訪問
－新造高速客船を追って－

2026.2.15　池田良穂

本学会から 2019 年 6 月に発行した「日本の旅客船Ⅰ」では、国内の高速旅客船の姿を網羅的に紹介しましたが、2018～2019 年時点での姿をまとめたので、すでに 7 年余りが経過しており、そろそろ新しい版を作らなくては思っています。手元にある同本には、引退した船や新しく登場した船の情報を逐次赤字で書き込んでいますが、それもずいぶんと数が増えました。

先週土曜日に寒さが少し収まったので、近場の家島航路の新造高速船を撮影に出かけました。堺の自宅から 2 時間ほどのドライブで、家島・坊勢島への航路が発着する姫路港に着きました。

この家島航路では、老舗の家島汽船が独占状態であったのに対して不満がたまり、島の中で新しい客船を運航するべしとの機運が高まり、数社が航路に参入して激しい競争を繰り広げ、ついに家島汽船は倒産。最近は残った船会社の統合があり、姫路～家島間は高速いえしまと高福ライナーの 2 社、姫路～坊勢島は坊勢輝（ぼうぜひかる）汽船の 1 社の運航になっています。



今回の主目的は、高速いえしまの新船「家島ライフ」の撮影でした。同船は、土曜日には、14 時以降の 3 往復に就航するとのことでしたので、11 時に姫路発の 19 総トン型高速客船「ま

うらⅡ」で家島の真浦まで行き、帰りに「家島ライフ」に乗船することにしました。同船は、家島の真浦港のすぐ近くの宮港の桟橋をでて、真浦港に寄港してから姫路に向かうことになっていたので、真浦港に着岸する姿もカメラに収めることができました。

　さて家島には初めての訪問でしたが、石材と漁業の島ということで、入り江の中にはガット船がたくさん係留され、小さな造船所がたくさんありました。また、高速旅客船以外にも、車と荷物を輸送する小型 RORO 貨物船も姫路港との間を結んでいました。高速旅客船の航海時間は約 30 分で、大人 1000 円の運賃でした。

姫路港に停泊する「第二しょうどしま丸」です。小豆島の福田港との間を 2 隻でピストン運航をしていました。

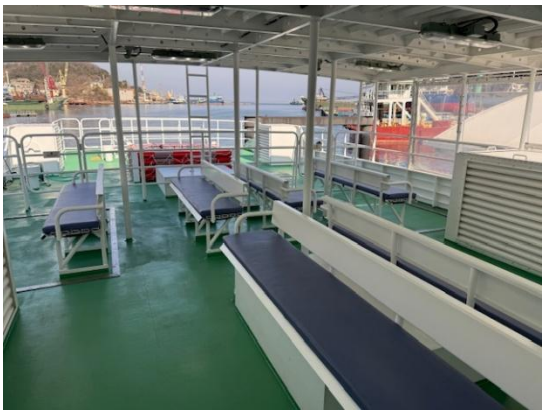
姫路港から家島の真浦港まで乗船した「まうらⅡ」です。典型的な 19 総トン型高速船で、最高速力は 31 ノット。2017 年の建造ですので、「日本の旅客船Ⅰ」にも掲載されています。船尾の暴露甲板にも座席があり窓はありますが、窓には文書が張られていたり、汚れていたりで写真の撮影は難しい状態でした。この座席の後ろには壁はなく、半透明のカーテンで仕切られていましたが、外に出ての撮影はできませんでした。

高福ライナーの運航する 19 総トン型の「高福ライナー2」です。この船は「日本の旅客船Ⅰ」には収録されていない船でした。いつどこの造船所で建造されたかご存じの方はご教示ください。

高速いえしまが運航する「家島ライフ」です。2024 年に瀬戸内クラフトの建造で、97 総トン、旅客定員 150 名とのこと。ブリッジの背後に露天甲板があり、海風を浴びながらの快適な航海ができます。平日の朝 1 便と、土日も含めて 14 時以降の 3 便に就航しており、案内には「中型船での運航」との表示がありました。

宮港を出て真浦港に着岸直前の「家島ライフ」です。

船内


2 階の露天甲板は防風も完璧で、高速航海でも快適な船旅が楽しめました。

家島の造船所の浮きドックには修理中の神戸港遊覧船「ボーボー神戸」の姿がありました。

(上)家島の入り江の中にはたくさんの造船所がありました。(下)スクリュープロペラがたくさん台船の上にありました。家島の造船所では、小型内航船の修理がたくさん行われていることがわかります。

姫路と家島を結ぶ RORO 貨物船。車と荷物の輸送を担っています。12 名までのドライバーは乗船可能なので、貨物船で十分ということなのでしょう。ドライバーは車内に留まって航海するようです。

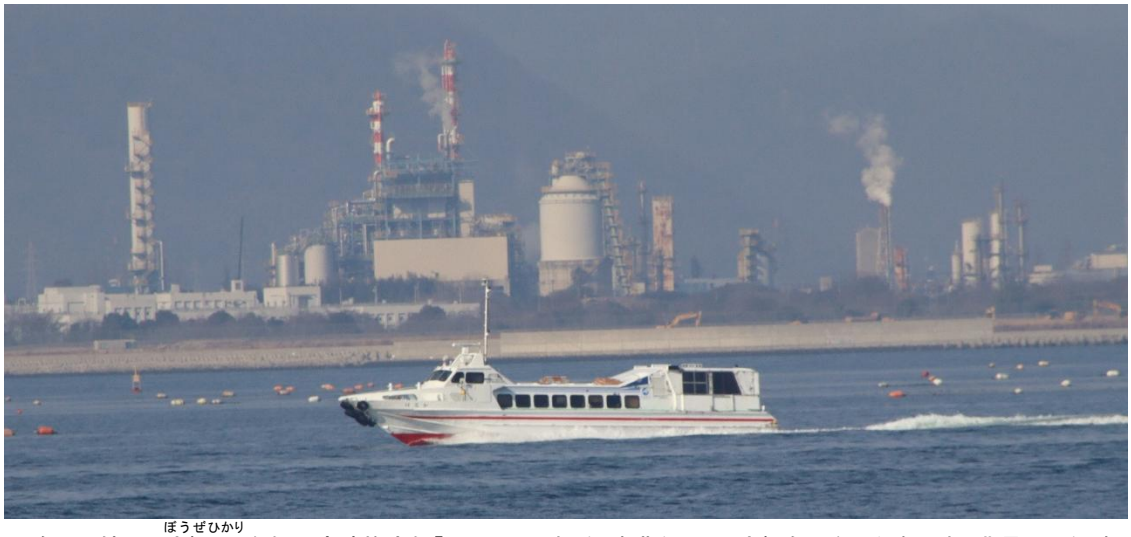
家島の入り江の最奥部の真浦港から北の方向を望むと、たくさんのガット船や造船所が見えました。

砂や石を積んだガット船の出入りで港内は賑わっていました。

港の中に並ぶガット船群。石と砂が島の特産品として生活を支えています。

家島の漁獲量は兵庫県一とか。海鮮料理を求めて来島する観光客も多いとのこと。港には「海鮮料理を目的の人は予約を!!」と書かれていました。飛び込みで入った港の見える店で海鮮どんぶりにありつけました。元女子プロの母娘の営むカフェでした。

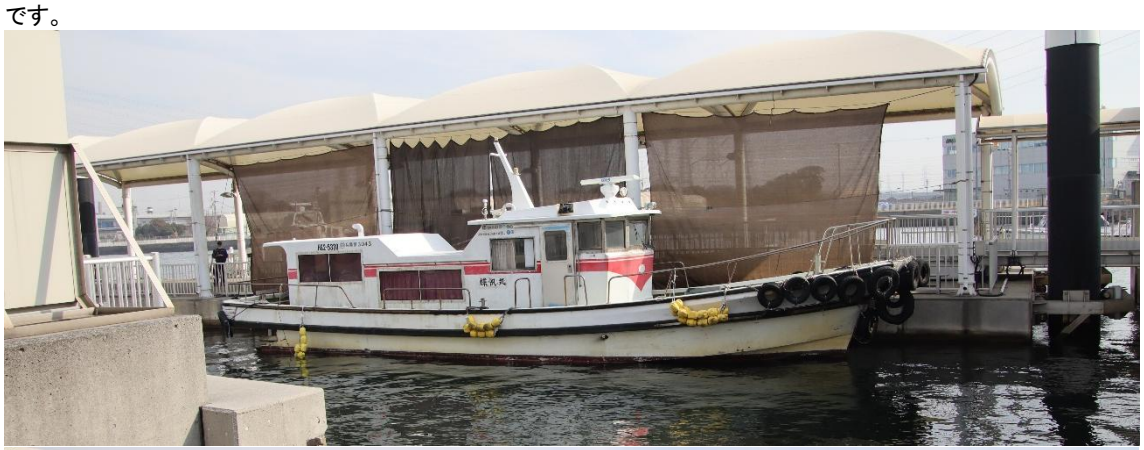
家島を出港するとすぐに、家島群島の 1 つの男鹿島が見えました。山が削られているのがわかります。採石とその販売が、家島の主要産業になっています。



帰路に反航した坊勢(ぼうぜ) 輝(ひかり) 汽船の高速旅客船「はるか」です。姫路港をでて、坊勢島に向かう姿です。背景には姫路の工業地帯の工場が見えています。

小型のガット船と反航しました。

姫路港のフェリーターミナルには、朝と同じ小豆島航路の「第二しょうどしま丸」が停泊していました。筆者が家島を往復する間に、この船も小豆島を往復して戻ってきました。画面右側の浮桟橋が家島・坊勢島行の高速旅客船の乗り場です。



浮き桟橋の一画には、古い 2 隻の「輝帆丸」が停泊していました。現役を退いているのか、予備船となっているかはわかりませんでしたが。